

平成26年度(2014 年度) 第5回吹田市子ども・子育て支援審議会会議録(要旨)

開催日	平成27年2月23日(月)	開催時刻	午後6時30分～8時15分
場 所	吹田市立子育て青少年拠点夢つながり未来館 4階多目的会議室		
出席者	泉会長、峯本副会長、渡邊委員、粉川委員、武内委員、香川委員、井村委員、植田委員、松下委員、長瀬委員、長谷川委員、山口委員		
欠席者	御前委員、田中委員、上農委員		
事務局	春藤部長、橋本理事、増山次長、熱田室長、澤野センター長、木田参事、岸上参事、宮所長、西村課長、黒木参事、山本参事、脇谷課長、杉原主幹、三住主査、曾我主査、谷井係員		
傍聴者	一般 13人		
案 件	1 (仮称)吹田市子ども・子育て支援事業計画の策定について 2 特定教育・保育施設の利用定員の設定について 3 その他		
泉会長	お忙しいところお集まりいただき、ありがとうございます。会議を始めたいと思います。傍聴希望の方は、いらっしゃいますか。		
事務局	本日は、13人の傍聴希望者がいらっしゃいますので、これから入場していただいでよろしいですか。		
泉会長	どうぞ、入ってもらってください。 (傍聴希望者入場)		
泉会長	議事に入る前に、本日の資料について、事務局から説明をお願いします。		
事務局	(傍聴についての注意点、資料の確認)		
泉会長	それでは議事に入ります。案件「1 (仮称)吹田市子ども・子育て支援事業計画の策定について」は、市長から諮問されています。事務局から説明をお願いします。		
事務局	(諮問内容の説明)		
泉会長	ただいま、諮問内容の説明がありました。次に、資料の説明をお願いします。		
事務局	(資料1、資料2を説明)		
泉会長	事務局から資料1、資料2の説明がありました。何か、ご意見はありませんか。		
委員	83ページの(6)放課後子ども総合プランですが、前回の審議会資料にはなかった「一体型」という言葉が、パブリックコメント時の素案にできました。「一体型」という言葉を追加した経緯を説明してください。		
事務局	まず、放課後子ども総合プランの策定経過について説明します。 平成26年7月31日に文部科学省と厚生労働省の連名で、放課後子ども総合プランが公表されました。内容としては、本市でいうところの留守家庭児童育成室(放課後児童クラブ)と太陽の広場(放課後子供教室)を子どもたちの安全が最も確保された小学校の中で計画的に整備を進めるというものです。 次に、11月28日付で放課後子ども総合プランのQ&Aが発出され、その中で、放課後児童クラブと放課後子供教室の目標事業量等を策定することが市町村に義務付けられました。ちょうど、子ども・子育て支援事業計画(素案)の中に盛り込めるぎりぎりのタイミングでしたので、12月22日の審議会で案をお示ししました。しかし、内容に不十分なところがありま		

したので、文言を整理してパブリックコメント時の素案に盛り込ませていただきました。

全国的には、放課後児童クラブと放課後子供教室が、同じ学校の中で実施されていないケースがありますが、本市の場合は、両事業とも学校の中で実施していますし、どちらにも参加できるような工夫もしています。

そういう中であって、改めて一体化を目指すという考えはありません。これまでの内容を充実していくということで、素案に盛り込んでパブリックコメントをお願いしたのですが、手続きについては、時間的な面で非常に厳しかったということもありますが、説明不足だったことについては申し訳なく思っています。

委員

時間的なことがあるので手続き的には仕方がなかったにしても、パブリックコメント前に素案を送っていただいた際にでも説明がほしかったです。審議会の資料は公表されていて、関係者は注視しています。学童保育と太陽の広場が一体化になっては困るということが、学童保育の関係者の中で大きなポイントとなっているので、たくさんの人が意見を提出したのだと思います。

国の定義では、同じ小学校内で両事業を実施することが一体型ということです。それぞれの事業が連携してプログラムを積極的に実施するということです。一体化というのは2つの事業を一緒にするというものですから、これは明らかに違います。吹田市の場合、それぞれの事業を実施して、積極的に連携を図っていくということです。その流れについては今後も変わらないということを書いてほしいと思います。

事務局

「放課後児童クラブ及び放課後子供教室の計画的な整備を進めます」と記載しており、一体化をしようという意図はありませんので、ご理解いただきたいと思います。

委員

確認ができればそれ以上はけっこうです。

泉会長

吹田市では当初から学童保育を学校内に作ってきたのですが、自治体によっては教育委員会との話がうまくいかず、学校内で実施できないということがあったようです。

委員

35ページの最終行のところ、「保育所」だけを整備するのではなく、幼稚園や認定こども園も含めて整備するのではなかったのですか。

事務局

申し訳ございません。「保育を提供する施設」に修正します。

委員

59ページ(7)保育利用率の目標値の設定について、平成31年度が37%になっていますが、他市と比べてどうですか。

事務局

他市の情報は持っていません。他市の状況は、次回に報告させていただきます。

委員

資料2について、まず、6の意見に対して、市の考え方等は、今後とも保育所、認定こども園など必要な保育を確保するための措置を講じるとしています。しかし、7の意見に対して、幼稚園と保育所のいいところをひとつにした認定こども園の普及を図るとしています。これは、どう理解したらいいのですか。市は認定こども園の普及のみを図っていくと受け取れるのですが、どうですか。

次に、13の意見で、学童保育について、3年ごとに事業者が変わる可能性がある民間委託はとても不安ですとあります。3年ごとに事業者を見直す根拠を教えてください。

事務局

まず、6について、児童福祉法における保育の実施責任のところで、保育所で保育をするのですが、7で、幼稚園と保育所を一体化していくということと矛盾はありません。実体上は、これまでと同じような運営になると思います。

次に、留守家庭児童育成室の委託については3年と決まっているわけではなく、本市では、委託や指定管理の期間については、3年から5年の間という基準が示されています。

委員	<p>今回、千里丘北に新しくできる留守家庭児童育成室については、初めての委託ですので、いきなり5年ではなくて、まずは3年にさせていただきました。</p>
事務局	<p>9の意見に対して、80ページの(2)ア(ウ)で示していますとのことですが、発達支援保育の対象になる子どもが増加していること、今後保育ニーズがますます増えていくなかで、発達支援保育の枠をどこまで増やすことができるのかという懸念があります。</p> <p>健常児と発達支援の対象児は一定のバランスが必要だと思っています。今、公立では5%で運用していますが、私立は待機児童が多くて、そこまでできない園があります。そういうことで、1つは発達支援の受入れのための人件費補助を増額しています。それと、もう1つはスキルの蓄積ということで、保育士の定着を目的に処遇改善を図っています。今と比べて5%アップになります。</p>
委員	<p>次に、発達指導員が各園を巡回して、保育の手だてや子どもの個性などの相談を受け、一緒に保育をつくり上げていく巡回相談を行っています。</p> <p>4の質の高い幼児期の学校教育・保育の質の中身については、少し具体的に書かれていますが、幼児期の学校教育・保育というときに、保育は養護と教育とに定義されているのですが、幼児期の学校教育というのはどういう定義になるのでしょうか。今まで幼稚園や保育園がやっていたことと、何か変わる部分があるのですか。</p>
事務局	<p>幼稚園には幼稚園教育要領があり、それに即して教育をしているので、学校教育ということになります。学校的なことをするのではなくて、今と同じような保育を実施していく予定です。</p>
泉会長	<p>幼稚園は学校教育法の学校の定義の中で今まで最後にありましたが、幼稚園から教育が始まるということもあって、体系的に整理されました。幼稚園が学校教育というのは、言語的に矛盾しているように思いますが、文部科学省としては幼稚園を幼児期の学校と定義しています。しかし、実態は昔と変わらないということです。</p>
委員	<p>保育所も幼児期の教育ですから、これからの新しい時代にどうやってふさわしい教育をするのかについては、もう少しみんなで検討していく必要があると思います。</p> <p>民間活力の活用ということが書かれていたと思いますが、親としては保育の質にこだわりたいところで、76ページ(3)幼稚園教諭と保育士の合同研修等に対する支援について、公私間の交流は現在どうなっているのか、今後、公私間の研修をどのようにするのか教えてください。</p>
事務局	<p>公私間の研修については、数年前から公私立幼稚園、公私立幼稚園・保育園、テーマによっては、小学校にも参加していただいて、一緒に研修を行っています。</p> <p>今後、認定こども園を普及していくうえで、今までそういう保育を経験していない園がほとんどですので、研修の機会を増やしていきたいと考えています。</p>
委員	<p>研修を支援するというのはどういう支援なのか教えてください。介護の現場で、例えば、特別養護老人ホームや老人保健施設の職員に対する研修を行っても参加人数はとても少ないです。職員はローテーションで仕事をしていますので、仕事中に研修を受けることができればいいのですが、休みのときでは給与が支給されないので参加されません。合同研修は、昼間の時間帯は難しいと思うので、こういった形の支援をするのかを教えてください。</p>
事務局	<p>研修は夜間になりますが、実地研修になるとやはり昼間になります。現在、保育園の公私立間の研修は行っていますが、幼稚園の公私立間の研修は行っていない。開催に向けて検討しているところです。</p>

委員	<p>パブリックコメントの意見が2,000件を超えたことにすごく驚いたのですが、それだけ市民の関心が高かったということだと思います。</p> <p>平成25年12月に行ったアンケートは48%ぐらいの人が回答しています。それを基準に試算がされていて、隠れたニーズが出てきていないのがすごく残念で、やはりもっと利用したい、保育所に行かせたいと思っているお母さんたちは隠れているだろうし、いろんなサービスを受けたいと思っている、それが反映されていないことが一番残念です。どれくらい上積みするかというのは難しいことだと思いますので、これから5年間、この試算でいくのではなくて、走りながらここは足りなかったというのが見えてくると思いますので、それに合わせて修正していただければと思います。</p>
事務局	<p>58ページをご覧くださいなのですが、保育ニーズが高い3号認定というのは、一番下のグラフになります。平成29年度のニーズ量は2,940人ですが、3,307人の提供量を確保しています。これはあくまでも定員で、定員を超えて弾力的運用ということでさらに受け入れることが可能です。これまでの保育計画では、計画どおりに整備したにも関わらず、待機児童が解消されませんでした。今回、これだけの量を整備すれば、待機児童はなくなると見込んでいます。しかし、平成29年度に目標を置いていますので、どちらかというと整備が間に合うのかということが問題になってきます。今後2年の間に、小規模保育施設を30か所増やして44か所に、保育所を5か所整備することができれば、平成29年度に待機児童は解消されると考えています。平成28年度中に検証が必要ですが、今まで以上に余裕を持って保育の量を確保していますので、これまでとは少し違うということを申し上げておきます。</p>
委員	<p>量の問題は是非とも達成してほしいと思いますが、質の問題は大変難しい問題を含んでいると思います。私は小学校教員を長くしていましたが、私が教師になった頃と今とでは、研修の量が雲泥の差です。さまざまな研修がありますが、昔に比べて質が良くなったかというとうまくわかりません。その職業に求められる専門性は身につけてほしい。専門性と人間性がどの職業でも車の両輪と言われています。専門的な知識は研修で得られますが、人間性は研修したからすごく良くなるかというそれは難しいのではないかと思います。</p>
事務局	<p>量の拡大を図ろうとする中で、質の向上は非常に難しい問題だと思います。知識だけではなく、経験が加味されないと保育の質は上がってきません。難しい課題ですが質の向上を図っていききたいと思います。</p>
委員	<p>パブリックコメントの意見は、まだホームページにアップされていませんが、きれいに整理されたものではなく、もっとリアルな声がアップされることを希望します。</p>
事務局	<p>2,000件以上の意見を頂戴しています。1つ1つの意見にお答えするのは困難ですので、同種類の意見を1つにまとめて、その意見に対して市の考え方を示す予定にしています。</p>
委員	<p>保育所に期待されていることは非常によくわかるのですが、一方で、量の拡大と質の向上という2つの課題を突き付けられています。吹田市においては、小規模保育はA型しか認めないということで、基本的には質を守るかたちになっています。</p> <p>ここで問題になるのが、今、保育現場では保育士が足りていないということです。全国的に保育士は不足しています。いろいろな形で吹田市から補助を受けていますし、国からも処遇改善のための補助金ももらっていますが、なかなか、それに応えられないというのが現状です。人的な保障がない中で保育をするのは非常に難しい面があり、現場の園長は悩みながら仕事をしているということを申し上げておきます。保育士の仕事は、子どもたちにとって</p>

	一番身近で素晴らしい職業だと思いますが、担い手がいないのが非常に悩ましいところです。
泉会長	保育士の養成校等は随分増えているのですが、なかなか間に合わない状況になっています。保育士の資格を持っている方で、結婚して退職し、家庭にいる方の再就職を促すというような取組みを積極的に進めていかなければなりません。
事務局	ハローワークとのタイアップや施設を紹介する相談会などを検討しています。人が人にサービスをする難しさや仕事の内容が精神的にも肉体的にもしんどいですが、やりがいを感じて保育に携わっていただけるようにいろいろな方策を考えていきたいと思います。
泉会長	ご意見は出し尽くされたと思いますので、案件1（仮称）吹田市子ども・子育て支援事業計画（原案）を承認してよろしいですか。
各委員	異議なし。
泉会長	原案どおり承認します。 次に、案件「2 特定教育・保育施設の利用定員の設定について」事務局から説明をお願いします。
事務局	（資料3を説明）
泉会長	みなし確認による利用定員について、何かご意見はありませんか。 ご意見がないようですので、本件を承認します。先ほどの案件1について、原案どおり承認と言いましたが、35ページの最終行は修正していただくようお願いします。 その他、何かありませんか。
事務局	次回の審議会は3月26日に開催します。場所、時間ともに今回と同じです。案件については、認定こども園の利用定員の設定、小規模保育施設の認可及び利用定員の設定についてなどです。
泉会長	本日の会議は、これで終了します。皆様、ご苦労様でした。